夢窓幼稚園通信第39号

2019年　9月　30日

秋の虫たちが夜の幼稚園の庭で、心地いい響きを奏でています。
それは過ぎた夏の日を回想しているようでもあり、やがて巡ってくる、そう遠くない冬を想い浮かべながら今の時を愛しんでいるようにも感じられます。

「時」というものは連綿と続いていくのと同時に、ひとつひとつの「時」がそれぞれかけがえのないものとしてあり、また人生において特別意味深い節目があるのだ！と、毎年ちょうどこの季節にあらためて思います。澄んだ空や流れてゆく雲、秋の響き……が、身体の奥深くで夢見がちにまどろんでいる心をくすぐっているのかもしれませんね。

幼稚園に通っていた頃の、言葉にならない漠然とした気分があります。「今の感じ…確かに遠い昔に体験したことがある！」と思うときがありますよね。
きっと今のむそうの子どもたちも、やがてそんな風に思う時があることでしょう。
多感に「今」を味わっていることが、未来の想像と創造につながっていくことでしょう。
この夏の体験が……、あきまつりに向かう日々が……、ゆっくりと身体の深くへと溶け込んでいって、やがてそこから新たな泉が湧くように、やわらかな思いが、輝くような思考が、爽やかな行動が生まれてくると信じています。

そのように過去という時は、人を通して新しいいのちが与えられ、未来は人に願いをかけるのでしょう。
「今」は時が自己表現する舞台であり、世界や社会がいのちあるものであるための主人公なのだと思います。

子どもたちと共に過す私たちは、自分が存在する意味を通して、そして私たちが求める最高の哲学を通して、ひとつひとつの「今」を、世界を生きていたいと思います。

新しい月10月がやってきてきっと風も変わることでしょう。
子どもたちのさらこな作りももっと盛んになるにちがいありません。
たくさんの9月の出来事たちと、共に過してきた人々に感謝しつつ、よろこびいっぱいの10月をつむぎ迎えましょう！

園長　弁光泰雄